

第5章 クジャクの新規捕獲手法の試行

5.1 はじめに

クジャクの新規駆除手法として、これまでにねぐらでのワイヤーや空気銃による駆除を実施してきた。しかしながら、ねぐらへのアクセスや銃器の使用が困難な地域での捕獲や複数個体の一斉捕獲等には新たな手法の開発が必要である。そのため、本年度は昨年度から継続実施するネットランチャーおよびくくりわな等による捕獲を試行した。

5.2 方法

(1) 調査時期

調査時期を表 5.1 に示す。

表 5.1 調査期間

調査日	調査項目
令和元年5月7日～10日	誘引、投網、ネットランチャー、くくりわな（抱卵メス）
令和元年6月3日～7日	誘引、くくりわな（抱卵メス）
令和元年10月1日～5日	誘引、くくりわな（ねぐら）
令和2年3月2日～6日	誘引、くくりわな（レック）

(2) 調査位置

5月および6月の調査位置を図 5.1、10月の調査位置を図 5.2、3月の調査位置を図 5.3 に示す。

5月および6月の調査位置は、主に調査期間中に探索犬を用いて発見した巣場所とした。10月の調査位置は、St.1 がクジャクのねぐらの近傍で周りを樹林で囲まれた小規模な空き地、St.2 および St.3 がクジャクのねぐらの林床とした。3月の調査位置は、レック（繁殖期に特定の場所で行う集団求愛場）とした。

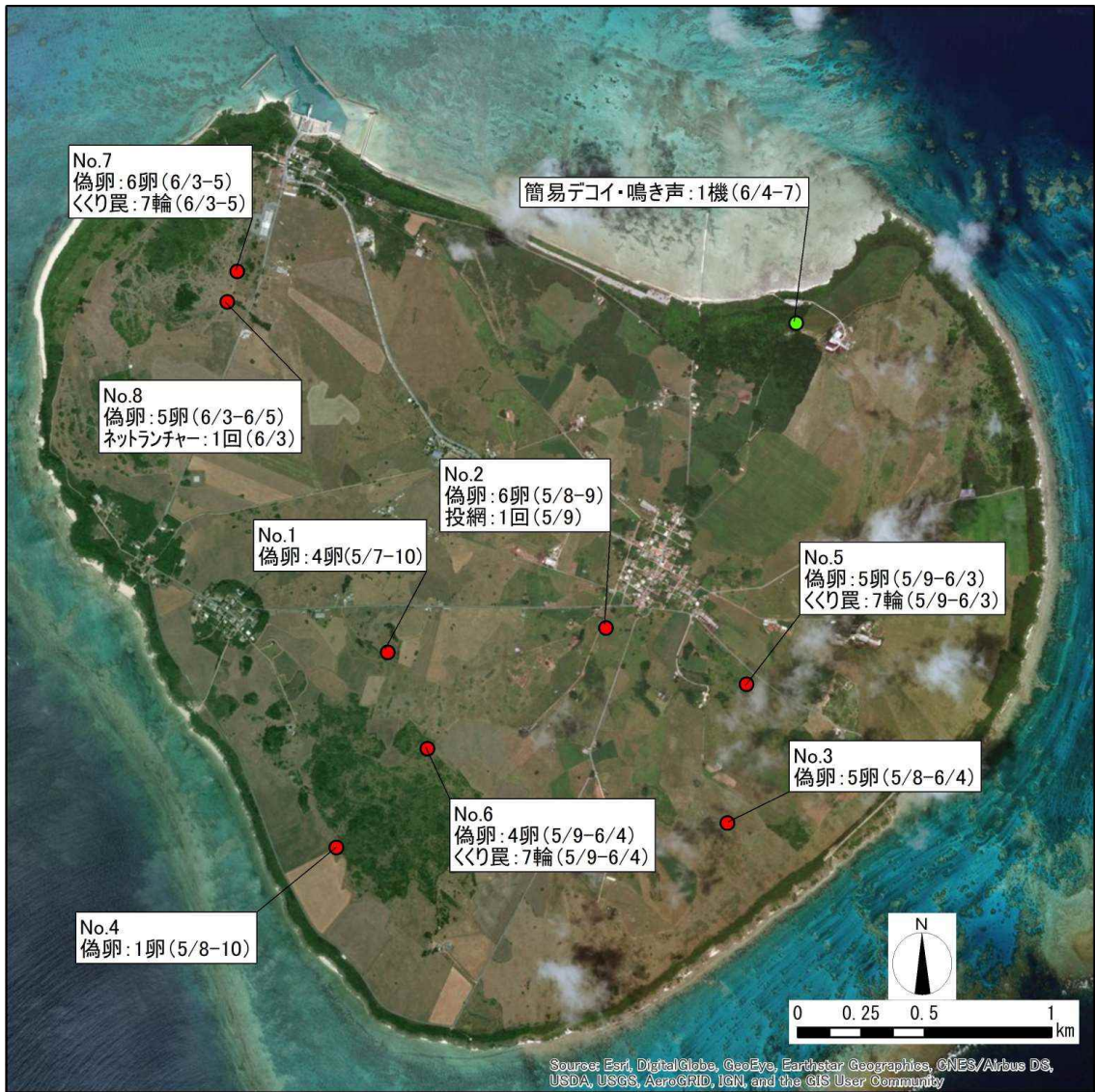


図5.1 調査位置 (5月、6月)

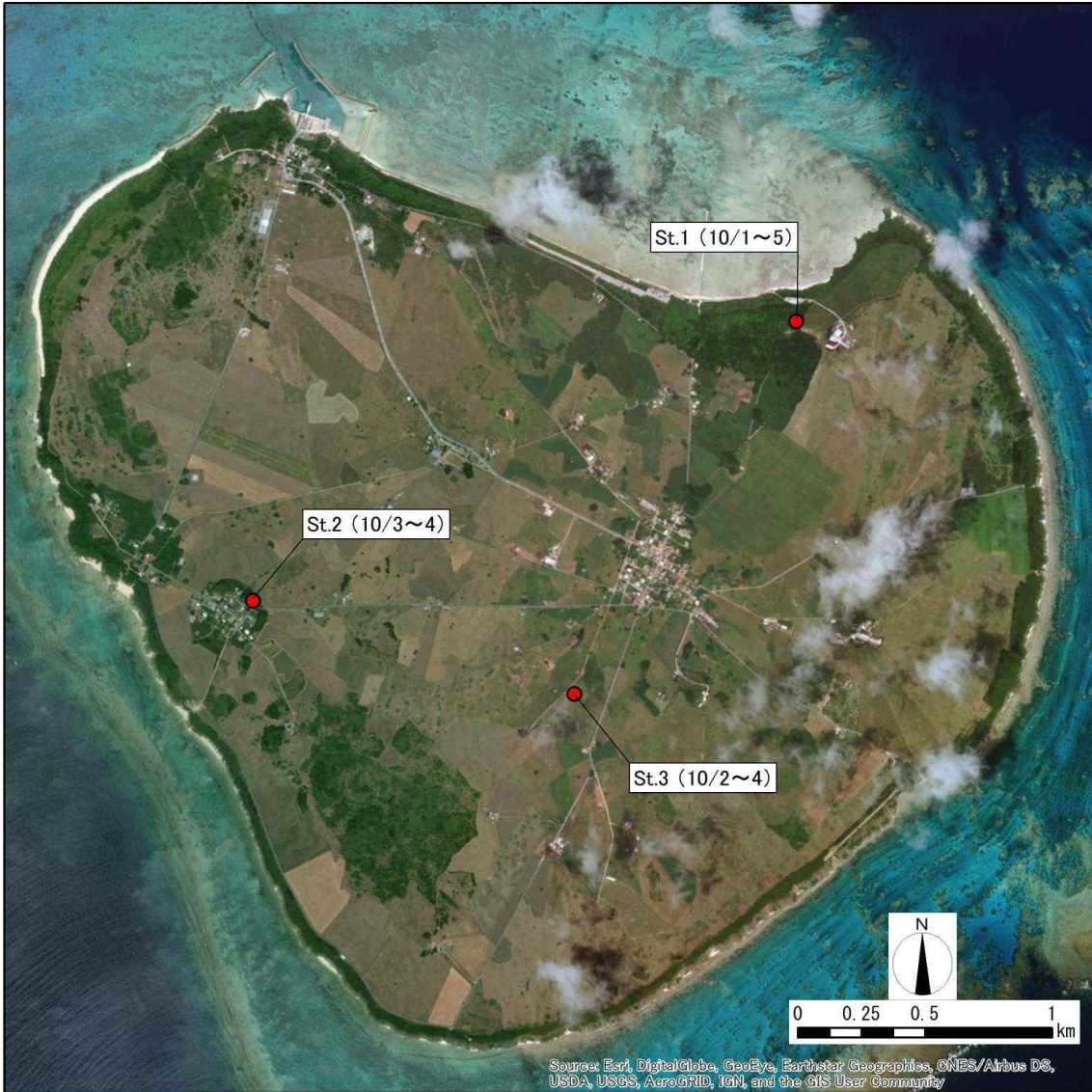


図5.2 調査位置 (10月)



図5.3 調査位置 (3月)

(3) 調査機材および設置方法

1) 5月、6月調査

①誘引

誘引には偽卵、簡易デコイおよび鳴き声を使用した。

偽卵は、探索犬によるクジャクの巣発見後、巣に戻ってくる抱卵メス誘引のため使用することとした。使用した偽卵はクジャク卵の型で合成樹脂を固めて作成した(図5.4)。また、偽卵使用の際には、産卵数と同数を置き換えることとした。偽卵を用いた試験は、8巣(巣No.1~8)で実施した。

簡易デコイは、巣立ち雛を誘引することを目的とし、クジャクのメスの写真をターポリン生地にプリントしたものをプラスチックボールに張り付けて自立させたものを使用した(図5.4)。また、設置した簡易デコイの横で雛連れのメスの鳴き声を再生した。簡易デコイを用いた試験は、1箇所で行った。

なお、誘引状況の確認には、目視観察と自動撮影装置を用いた。

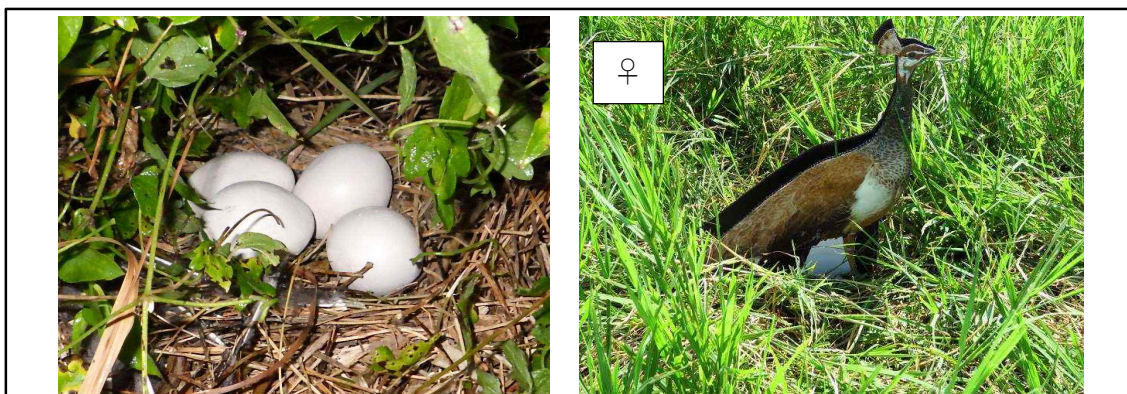


図5.4 偽卵(左)および簡易デコイ(右)

②投網

投網は、探索犬で発見した巣の抱卵メスを捕獲するため使用した。最大開口時が直径3mで網目が1.5cmの市販品を用いた(図5.5)。投網は巣No.2のみで使用した。



図 5.5 投網

③ ネットランチャー

ネットランチャーは、探索犬で発見した巣の抱卵メスを捕獲するため使用した。本機は、炭酸ガスボンベによりネットを発射するシステムで、射程は5m程度である(図5.6)。ネットの最大開口時は2m×2m、網目は20cmである。本機は巣No. 8のみで使用した。



図 5.6 ネットランチャー

④ くくりわな

くくりわなは探索犬で発見した巣の抱卵メスの捕獲のため使用した。くくりわなは偽卵を置いた巣のクジャクの出入口を考慮して設置し(図5.7)、周辺環境を可能な限り改変しないよう速やかに設置した。くくりわなは3巣(巣No. 5、6、7)を対象に各巣7輪を設置した。



位置	設置日時	撤去日時	稼働時間帯	合計稼働時間	くくりわなの輪数
No.5	2019/5/9 7:30	2019/6/3 16:00	6:00-19:30	346時間	7
No.6	2019/5/9 18:30	2019/6/4 8:00	6:00-19:30	340時間30分	7
No.7	2019/6/3 18:30	2019/6/5 11:30	6:00-19:30	20時間	7

図 5.7 くくりわな設置状況

2) 10月調査

①誘引

誘引には、鳴き声、簡易デコイおよび仔牛用飼料を使用した。

鳴き声再生機は、St. 1周辺に生息するクジャクを調査地点まで誘引するため設置した。鳴き声は、雌の鳴き声を使用した。また、St. 2およびSt. 3はクジャクの埒であることから、音量を小さくして再生した。

簡易デコイは、調査地点に接近してきたクジャクをよりくくりわな設置位置に近づけるため、クジャクのメスの写真（ターポリン生地プリントし、プラスチックボールに張り付けた）を自立させ使用した（図5.8）。

仔牛用飼料は、クジャクをくくりわなで捕獲できる場所まで誘引するため、くくりわなの設置箇所の中心に設置した（図5.8）。

なお、誘引状況の確認には、目視観察と自動撮影装置を用いた。



図5.8 簡易デコイと誘引餌の設置状況

②くくりわな

くくりわなは、黒色にペイントしたものを用い、誘引餌を囲むようにSt. 1およびSt. 2に56輪、St. 3に42輪設置した（図5.9）。

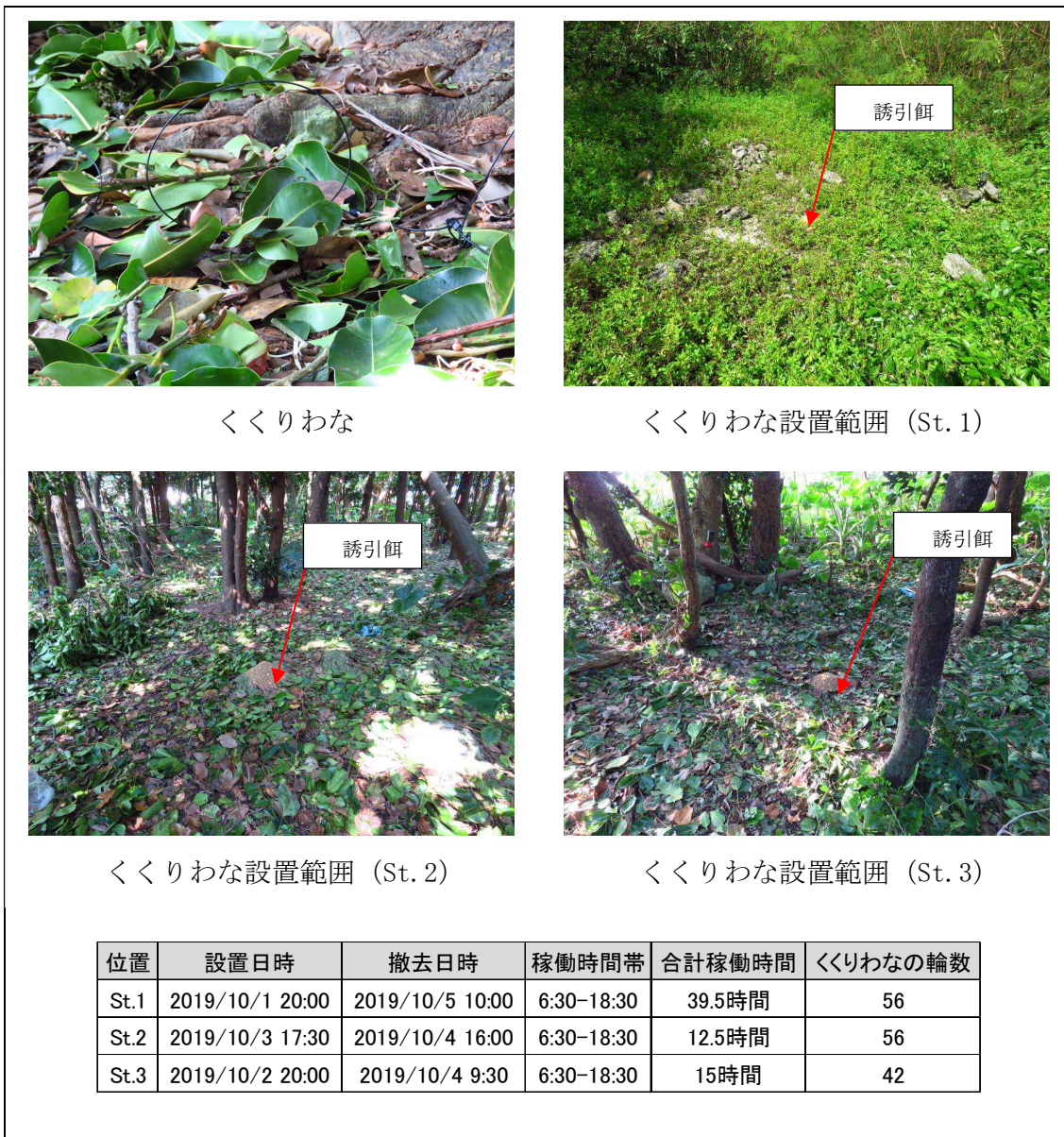


図 5.9 くくりわな設置状況

3) 3月調査

レックにおいてオスがディスプレイしている箇所を中心としてくくりわなを設置した。くくりわなは、黒色と緑色の迷彩色にペイントしたものを扱い、St. 1に70輪、St. 2に49輪、St. 3に28輪設置した（図5. 10）。



図 5. 10 くくりわな設置状況

5.3 調査結果および考察

(1) 5月、6月調査

1) 偽卵

偽卵は8巣で使用したが、再抱卵した巣は2巣（25%）のみであった（表5.2）。再抱卵が少ない理由としては、探索犬および調査員が巣発見時に抱卵メスに接近すること、巣周辺の微環境の改変の影響が大きいと考えられる。そのほか、犬や人の匂いの残留による影響、クジャクの偽卵識別能力がある可能性も考えられる。

表 5.2 偽卵試験結果

巣 No.	確認状況							再抱卵	巣環境
	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日	6月3日	6月4日	6月5日		
1	4卵確認			♀不在	放棄			×	開放的
2		6卵確認	抱卵(捕獲)					○	隠蔽的
3		5卵確認				放棄		×	開放的
4		1卵確認		♀不在	放棄			×	開放的
5			5卵確認	抱卵	放棄			○	開放的
6			4卵確認	♀不在		放棄		×	隠蔽的
7					6卵確認		放棄	×	隠蔽的
8					5卵確認		放棄	×	隠蔽的

2) メスの簡易デコイおよび鳴き声による誘引

巣立ち雛の誘引が可能か簡易デコイを設置し、雛連れのメスの鳴き声を再生したが、成鳥は最大4羽誘引されたものの、巣立ち雛は誘引できなかった（図5.11）。誘引された成鳥については、くくりわなをしかけていれば捕獲できた可能性があると考えられる。



図 5.11 メスの簡易デコイおよび鳴き声により誘引された個体

3) 投網、ネットランチャー

探索犬で発見した巣の抱卵メスを対象に投網およびネットランチャーを用いて捕獲試験を行った。

投網では抱卵メス 1 個体を捕獲した (図 5.12)。投網は網の端に重りが付いており、柔らかい草地であれば地面まで網が下りるため、クジヤクに逃げられる隙間がほとんどないと考えられた。しかし、投網を狙った場所に的中させられる投げ手が必要であり、網がひっかかる木本があるような場所では使用に向かないことなど使用条件が限られる。

ネットランチャーは網を発射したが、草が邪魔となって網が地面まで下りず、隙間からクジヤクに逃げられた。ネットランチャーの網が軽いため、当該方法には向かないと考えられた。



図 5.12 投網による捕獲時の状況

4) くくりわな

探索犬で発見した巣の抱卵メスを対象に巣周辺にくくりわなを設置したが、捕獲することはできなかった。くくりわなは、探索犬で発見した巣の抱卵メスが巣を放棄する可能性が高いと考えられること、巣周辺の微環境を改変しないよう設置することが困難な場合が多いことから、抱卵メスの捕獲にはあまり向かないと考えられた。

(2) 10月調査

調査の結果、すべての調査地点でクジャクの捕獲はなかった。

自動撮影データから、St.1では少なくとも3個体(すべてオス)、St.2では少なくとも2個体(オス1個体、白色型1個体)、St.3では少なくとも2個体(オス1個体、性不明1個体)を調査地点に誘引していた(図5.13)。しかし、St.2では10月4日15時50分、St.3では10月4日9時10分に脱走牛が出現し、くくりわなが踏まれて稼働しない状態となった(図5.14)。

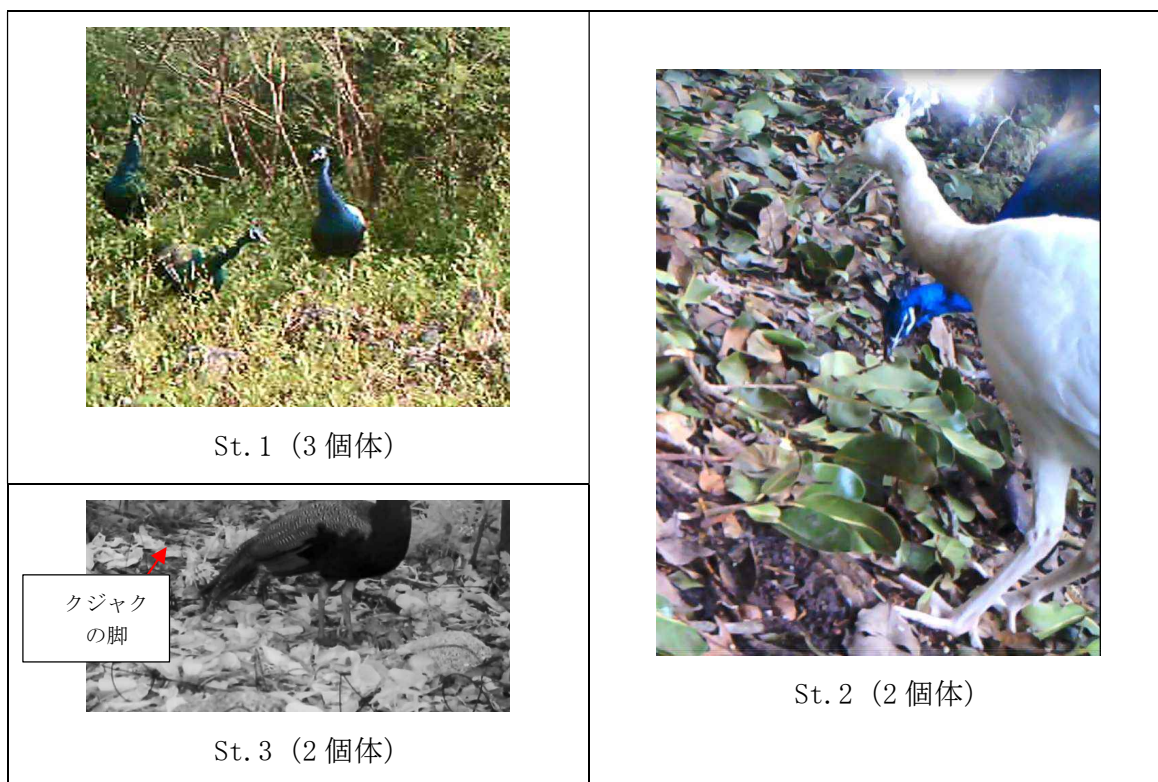


図 5.13 誘引個体



図 5.14 脱走牛による踏みつけ状況

(3) 3月調査

1) 捕獲結果

調査の結果、St. 1 でメス 3 個体を 3 月 5 日に捕獲した (図 5.15)。なお、ディスプレイを行っていたオスの捕獲はなかった。



図 5.15 捕獲状況

2) レック

くくりわなの設置にあたり、レックの確認を黒島全域で行ったところ、レックは11時と16時の前後30分程度で行われていた。特に16時前後の確認が多かった。また、ディスプレイを行う範囲は個体や日によって異なることがあったため、くくりわなを設置する場合はその対象とするレックを観察したうえで、状況に応じて設置方法を検討する必要があると考えられた。